

大阪大学経営協議会（平成25年度 第1回）議事要旨

日 時 平成25年6月18日（火）10時00分～11時45分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 平野総長（議長）

大竹、川島、河田、川名、小林、近藤、佐藤、城野、角、竹内、手代木、野村、
恵比須、東島、馬場、相本、阿部、尾山、江口、木村、岡村、金田、八木、森崎
各委員

欠席者 中村、森 各委員

議事に先立ち、会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

続いて、前回（3月22日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

議 事

【議事】

1 産学共同の研究開発による実用化促進（大学に対する出資事業）について

馬場理事から、資料3に基づき、産学共同の研究開発による実用化促進（大学に対する出資事業）の実施形態、及び当該事業に係る共同研究・事業化委員会委員候補者（案）について説明があり、審議の結果、これを承認した。

2 平成24年度決算について

阿部理事から、資料4に基づき、平成24年度決算の概要及び利益処分に関し、その特色、前年度との比較等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

なお、委員から次のような意見があった。

- ・ 決算を行う際、年度当初の予算と決算を対比させ原因究明を行う計画対比の手法を取り入れることで、さらなる分析が可能となるのではないか。

3 平成24年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

恵比須理事から、資料5に基づき、平成24年度に係る業務の実績に関する報告について、平成24事業年度の全体総括及び主要な取組事項の説明があり、審議の結果、これを承認した。

なお、委員から次のような意見があった。

- ・ 附属病院収入額を安定的確保し、運営費交付金の増減に影響されない健全な病院経営が可能となった点は、非常に高く評価できる事項である。

- ・ 平成24年度における様々な取組によって蓄えられた内なる力を、今後は、的確に外向けにアピールし、産学連携の推進等に活かすことが重要である。
- ・ 平成24年度は新執行部の体制整備の期間と考えられるが、平成25年度はその運用が試される時期であり、しっかりとした取組を行い、成果を出してもらいたい。

4 平成26年度概算要求事項について

恵比須理事から、資料6に基づき、平成26年度概算要求事項について説明があり、審議の結果、これを承認した。

5 教員ポストの活用について

恵比須理事から、資料7に基づき、教員ポストの大学への留保及びその活用について説明があり、審議の結果、これを承認した。

6 平成25年度6月期の賞与について

尾山理事から、資料8に基づき、平成25年6月期における教職員の賞与の支給基準等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

7 平成25年度6月期の役員賞与について

平野総長から、役員賞与について、役員報酬規程を基に役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案したうえで支給することとしたい旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。

8 平成24年度資金運用について

阿部理事から、資料9に基づき、平成24年度における運営費交付金等を事業資金とした長期及び短期の資金運用の結果について報告があった。

【意見交換】

1 大学改革について

大学改革について、人材育成機能の強化やグローバル化推進等の観点から、大阪大学が重点的に強化すべき点や、目指すべき方向性等について意見交換を行い、学外委員から次のような意見があった。

- ・ グローバル化の推進にあたり、優秀な留学生を受入れることが、彼らと交流する日本人学生にとっても良い刺激になることも留意してはどうか。また、留学生受入れ促進のためには、文法系学部英語の本が少ないことを改善する必要があるのではないかと。
- ・ 日本の大学教員は、出身大学からの採用者である比率が海外に比べて高く、例え優秀な人材であっても同質の人間の集まりであることから、組織としての多様性に欠け、決して強いものとはいえない。世界中で公募を行い採用するポストが必要ではないかと。
- ・ 日本は、内なるグローバル化（日本国内への外国人受入れの推進等）が弱い。大学がライフラインの整備などを地域と一緒に取組み、アピールすることで、自ずと優秀な人

材が集まってくるのではないか。

- ・ 東大や京大のコピーではない大阪大学のアイデンティティや、海外に打って出るための材料を見出す必要がある。
- ・ 日本は基礎研究に強く、臨床研究が弱いと言われてきたが、最近では基礎研究まで弱くなっているというデータもある。基礎研究にこそ注力すべきであるが、安定的な研究の継続のためには柔軟な人事給与システムが重要になる。
- ・ 世界10指の大学を目指すにあたって、まずはターゲットを絞り、阪大らしさ、とんがらせたい部分から取組むべきではないか。
- ・ 大学の発展に資する優秀な人材を育成するためには、平等に扱うのではなく、その人材を優遇することが必要ではないか。また、附属病院等の組織についても同様であり、メリハリをつけた経営を行うことで、より一層の収入増が期待できる。

【その他】

1 次回経営協議会の開催予定について

平成25年度第2回の本協議会について、平成25年9月10日に開催する旨の報告があった。

(以 上)